

令和6年度第2回国有林モニター現地見学会の開催報告

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。

東北森林管理局では、令和6年4月から2年間の任期として管内5県にお住まいの47名の方に国有林モニターにご就任いただき、国有林野事業について理解を深めていただいた上でご意見・ご提案をいただいています。

こうした取組の一環として、令和6年10月10日（木曜日）、盛岡森林管理署管内の盛岡市、雫石町において、令和6年度第2回国有林モニター現地見学会を開催し、21名の方にご参加いただきました。

1. 治山事業、造林事業の説明

午前中は開催地である盛岡市、雫石町を管轄する盛岡森林管理署において治山事業及び造林事業について説明しました。

当初は岩手山南麓の国有林現地で、治山事業、造林事業について見学する予定でしたが、岩手山噴火警戒レベルが引き上げられたことから、安全性を考慮し、盛岡森林管理署会議室で説明を行うこととなりました。

始めに、岩手山の火山活動に伴う土砂流出への対策として実施した治山事業について説明しながら、事前にドローンで撮影した治山ダムの上空からの映像をご覧いただきました。また実際に森林でどのように造林事業が行われているのか、森林の再造林にかかるコスト低減のための取組等について説明しました。

その後、当局職員が考案し作成した造林事業について遊びながら学ぶことのできるカードゲーム「ZORING（ゾーリン）」を体験いただき造林事業への理解を深めていただきました。



治山事業、造林事業の説明



カードゲーム「ZORING」の体験

2. 製材工場の見学

午後は雫石町にある株式会社川井林業雫石工場で、木材の製材過程を見学しました。

従来型の製材機に比べどの位生産効率が上がったのか等、詳細をご説明いただきながら、森林から供給された原木が最新鋭の設備を用いて建築現場で使用する集成材の原料に加工される過程や、コンピューターで木材の切り方が細かく制御されている様子などを見学しました。



川井林業雫石工場での見学